



2009年7月10日
国際化学工業協会協議会
(社) 日本化学工業協会

世界の化学工業界が炭素収支のライフサイクル分析結果を発表

化学工業により可能になる温室効果ガス排出量削減は、同業界による排出量の**2倍以上**に相当し、**2030年**までの削減可能性は**4倍**を超える

世界の化学工業界を代表する国際化学工業協会協議会 (ICCA) は、化学工業界の炭素収支のライフサイクル分析結果を発表しました。今回の発表は、ローマで開催された「エネルギーと気候に関する主要経済国フォーラム」に関連して行われたものです。この分析では、化学工業界により直接・間接に排出される温室効果ガス (GHG) 1単位につき、化学工業界から他の業界と消費者に提供される製品・技術を通じ、**2単位以上**の排出量削減が可能になると結論しています。また、産業界、ステークホルダー、政策担当者による一定の対策を想定した場合、**2030年**までに、GHG 排出削減量と排出量の比率が「**4対1**」以上に上昇することもわかりました。

世界の化学工業界が化学製品のライフサイクルを通じて温室効果ガス排出量に与える影響と、化学製品が用途にもたらす効果を調べるこの調査では、国際的経営コンサルティング会社であるマッキンゼー社 (McKinsey & Company) が、第三者による分析とプロジェクト全体の管理を担当しました。また、ヨーロッパ有数の第三者環境調査・コンサルティング機関であるエコインスティテュート (Öko Institut) が、分析の審査を実施し、計算値を確認しました。化学工業界は、このような自主的計画に乗り出した世界初の業界です。

ICCA 会長を務めるクリスティオン・ジュールカン (Christian Jourquin) ソルベイ (Solvay) 社 CEO は、「この調査で明らかになったのは、化学製品のバリューチェーン全体で省エネルギーと正味排出量削減を可能にする製品を製造することにより、世界経済の二酸化炭素排出量を劇的に削減する解決策を提供する存在として、化学工業界が不可欠な役割を果たすということだ」と述べています。

量という観点では、最も効果的な排出量削減用途は、建築用断熱材 (発泡成形ポリスチレン、押出成形ポリスチレン、ポリウレタンなど)、農業用化学物質、照明、プラスチック包装材、船舶防汚塗料、合成繊維、自動車用プラスチック材料、低温洗剤、エンジン効率向上、プラスチック配管材料であることが判明しました。

アラン・ペロワ (Alain Perroy) ICCA 事務局長は、「マッキンゼーの**2030年**に関するシナリオでは、生産における温室効果ガス排出量削減と、その製品を通じた削減の両方により、世界の温室効果ガス削減を促進するという意味で、化学工業界が相当な潜在能力を持つことが明らかになった。産業、政策担当者、他のステークホルダーが、排出量削減を促進する対策を講じ、

化学製品を十分に活用すれば、2030年までに排出量削減と排出量の比率を『4対1』以上に引き上げられることも、この調査で示唆された」と述べています。

世界の化学工業界は、化学物質の製造工程の改善により、温室効果ガス削減の促進を目指しています。化学工業界は、製造現場での大幅なエネルギー効率改善と温室効果ガス排出量削減を達成し、今後も改善を継続すると約束しています。また、化学製品のバリューチェーン全体を通じ、化学製品による省エネルギーと正味排出量削減を実現する役割も担っています。さらに詳しい情報は <http://www.icca-chem.org> でご覧いただけます。

この調査では、ライフサイクル全体の二酸化炭素換算 (CO₂e) 排出量分析により、炭素効率を改善する化学物質の使用が世界経済に与える影響を評価しました。その中で、100種類以上の個別化学製品用途について分析を実施し、化学業界と結びついたすべての排出量と排出削減量を比較しました。

分析では、化学工業界で関連性のある主な製品と分野すべてを対象とし、化学工業界と関連する CO₂e 排出量を表す部分が調査範囲に含まれています。化学工業界による製造に関連する排出量はすべて含めたのに対し、排出削減量については、主な用途による削減量のみを評価しました。このため、別のライフサイクル分析を実施した場合、この調査で報告した数値を上回る排出削減量が求められる可能性があります。最終的に、2030年のモデルとしたシナリオは、生産と使用の両段階における今後の排出状況を推定するために使用されました。

報告書の全文を Web サイト(<http://www.icca-chem.org>) に掲載しましたので、2009年12月7日～18日にデンマークのコペンハーゲンで開催される国連気候変動枠組み条約会議に向けた検討資料としてご利用いただけます。

国際化学工業協会協議会 (ICCA) は、2007年に売上高が3兆米ドルを超えた産業部門である全世界の化学工業界を代表する団体です。世界の化学物質製造事業の70パーセントを超える国々の企業が ICCA に加盟しています。協議会は化学物質の管理、気候問題をめぐる国際協議、政財界の連携、規制関連問題、ステークホルダー支援、政策提言、コミュニケーションに重点を置き、レスポンシブル・ケアなどの自主計画の実施と調整に携わり、業界内でのベストプラクティスを推進しています。

###